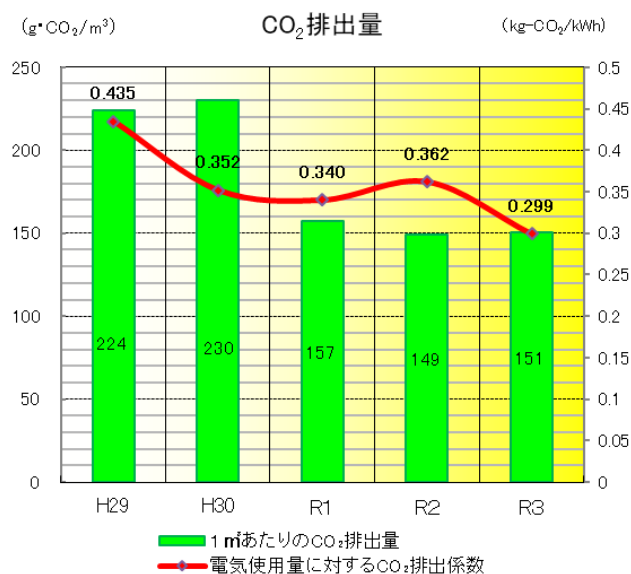
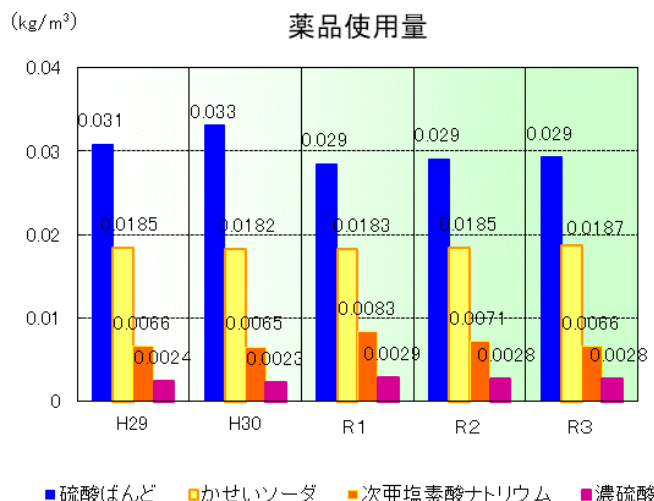
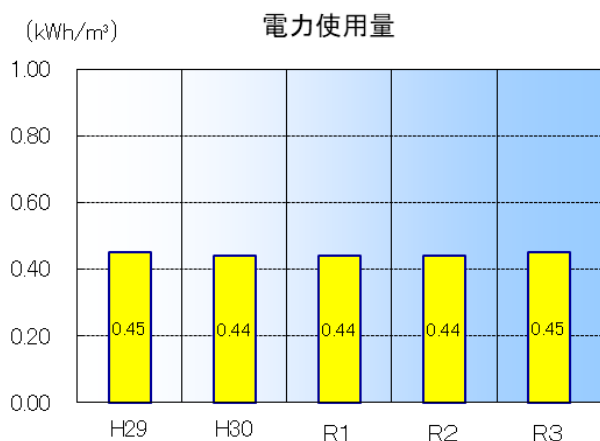


(1) 環境効率を表す指標

環境効率を表す指標は、水道水1m³を作りお届けするまでに必要となる環境負荷量を算出し、環境に配慮した事業展開が図られているかを見るものです。1m³あたりの量に換算することにより、事業の量の変動を考慮した年度ごとの比較が可能です。環境負荷量としては、電力使用量、薬品使用量及びCO₂排出量を取りあげています。

$$\text{環境効率を表す指標} = \frac{\text{環境負荷量}}{\text{給水量}}$$



大阪市の1世帯平均人員1.84人当たりの1年間使用水量に伴うCO₂の排出量は、「給水量1m³あたりのCO₂排出量」をもとに、次のとおり計算できるのじゃ。

(ア) 1世帯1.84人当たりの1年間使用水量	165 m ³
(イ) 給水量1m ³ あたりのCO ₂ 排出量	151 g・CO ₂ /m ³
(ウ) 家庭1世帯1年間の水道使用に伴うCO ₂ 排出量 (ア) × (イ) / 1000	25 kg・CO ₂



※ 1m³あたりのCO₂排出量は、前年度公表のCO₂排出係数（基礎排出係数）をもとに算出しています。

※ CO₂排出係数とは、電気事業者が算出する電気使用量1kWhあたりのCO₂排出量のことです。

(2) 環境会計

① 環境会計の趣旨と導入の目的

環境会計とは、事業活動において、環境保全への取組を効率的かつ効果的に推進していくことを目的として、環境保全のためのコストとその効果を数量的（貨幣単位又は物量単位）に把握・測定、公表する仕組みです。

水道局では、環境保全コストとそれによる効果を把握して効率的・効果的な事業運営を行うこと及びお客さま（市民）に対してより一層情報公開を行い、説明責任を果たすことを目的として、環境会計を導入しました。



② 対象範囲

水道事業及び工業用水道事業における環境保全にかかる事業活動を対象とします。

ただし、水道局の本来業務に組み込まれており、環境保全にかかる金額のみを明確に抽出できない事業活動については、計上していません。

③ 環境会計（令和4年度版）の概要

ア 環境保全コスト

令和3年度での投資額はありせん。また費用額は、約3億1,327万円でした。

イ 環境保全への取組に伴う費用削減効果

環境保全への取組を実施したことによる費用削減効果は、約16億7,960万円でした。

ウ 環境保全効果

環境保全への取組を実施した結果、26,378 t-CO₂/年のCO₂削減効果が得られました。

また17,878 t/年の廃棄物削減効果が得られました。



④ 環境会計（令和4年度版）の総括表

分 類		主な取組	(※1) 費用額（千円）	(※2) 費用削減効果（千円）	(※3) 環境保全効果（指標等）
事業 エリア 内 コスト	地球環境 保全コスト	太陽光発電、水力発電、取・配水ポンプの回転速度制御、緩速攪拌方式の変更、高効率型照明器具の採用、オゾン注入制御の改良、無薬注式脱水機導入	169,735	1,105,390	CO2削減量 26,378 t-CO2/年
	資源循環 コスト	浄水発生土の有効利用・減量化	142,156	574,210	廃棄物削減量 17,878 t/年
管理活動コスト		広報活動等	1,380	-	水の流れツアー・出前水道教室「水」の絵コンクール
合 計			313,271	1,679,600	-

※1「費用額」には、環境保全を目的とした設備の減価償却費と点検費などの維持管理費の合計額、委託料、団体分担金などを計上しました。

※2「費用削減効果」については、原則として各取組を実施しなかった場合と比較して削減されたと考えられる金額を算出しました。

※3「環境保全効果」については、原則として各取組を実施しなかった場合と比較して、削減されたと考えられる「CO₂」及び「廃棄物」の「削減量」を算出しました。